



紫友

SHIYU

同志社校友会 北海道支部機関誌 再刊第4号



校友会北海道支部総会の開催を祝して

同志社大学 学長 村田 晃嗣



校友会北海道支部総会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。平素は、本学に対しましてご厚情、ご支援を賜わり、誠にありがとうございます。教職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

同志社大学は1875年の同志社英学校としての創立以来、自治自立の精神に富み、自由を尊び、良心を手腕に運用する力強い人物の輩出を願い、教育研究活動を展開してまいりました。そして、より個性的で特色ある私学であり続けるために、時代に即応した様々な改革に取り組んでおり、創立140周年にあたる2015年には次の取り組みに注力しているところです。

一点目はグローバル化への取り組みです。アモスト大学に学んだ新島の伝統を継承し、グローバル・リベラルアーツ副専攻を設置するなど、数を競う量的なグローバル化ではなく、これまでの実績を活かした同志社らしく、京都らしい質的なグローバル化を今後より強く進めてまいります。「スーパーより老舗」のグローバル化を目指してまいります。

二点目は学内のガバナンスの整備です。今や14学部4独立研究科を擁する本学において、学内の合意形成を経て実行することはたいへんな時間と労力を要します。一方で、社会が大学に求める変化の程度やそのスピードは大きく速くなっており、この内外のギャップを解消することが喫緊の課題

です。昨年11月に設置した学長室を中心に、学長の企画立案機能の強化と意思決定・校務執行システムの改革を進めているところです。

三点目は2025年の同志社創立150周年にむけた「同志社大学ビジョン2025」、そのビジョン達成にむけてのアクション・プランの策定を全学的に進めてまいります。

また日本には781もの大学があります。その中でも本学はまことにユニークな存在だと考えています。本学には三つの特徴があります。第一は、京都に位置しているということです。全国の大学生の約4割が首都圏の大学で学んでおり、たいへんな首都圏集中といえます。首都圏で学ぶことのメリットも大きいでしょうが、首都圏以外の多様な視点から社会を考察することも実に重要です。特に学生が伝統と革新の共存する京都で青春時代を過ごすことの意義は決して小さくありません。

第二に、同志社は私学だということ。同志社には創立者・新島襄の教育理念が生き続けています。明治政府がいわゆる和魂洋才で、近代化のために西洋の技術や制度を模倣しようとした折に、新島は西洋の技術や制度を支える市民社会の重要性を訴え、その市民社会を構成する賢明で自立的な市民、つまり「良心を手腕に運用する人物」を育成しようとしたのです。幕末に国禁を犯して単身アメリカに渡り10年余をそこで過ごした新島だからこそ

の発想でしょう。学生にはぜひ新島について知ってもらいたいと考えています。新島について知ることは、近代の日本、同志社、そして、我々自身の来歴について知ることもあるからです。

第三は、同志社がキリスト教を教学の基盤に据えているということです。明治以来、日本の人口に占めるキリスト教徒の割合はわずか1%にすぎませんが、国際社会ではキリスト教人口は22億人にも上ります。キリスト教の視点から社会や物事を考察し、キリスト教について一定の理解や知識を有していることは、多様性と国際性の両方に通じるのです。

同志社の徽章、三つ葉のクローバーは知徳体を表していますが、京都、私学、キリスト教という三つの特徴に見立てることもできるかもしれません。そして、そこに共通するのは、多様性であり、寛容の精神であり、自立心です。これらなしに今後のグローバル社会をクリエイティブに生き抜くことはできません。同志社は伝統ある学校ですが、その特徴や教育目標はきわめて今日的でもあるのです。

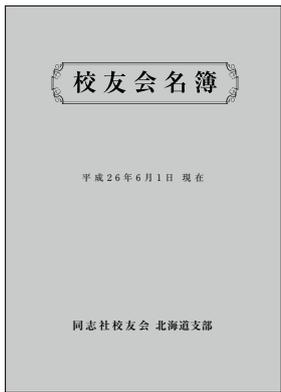
最後になりましたが、本日ご列席のみなさまが、この場を通じて相互の交流をより一層深められますとともに、今後ますます活躍されますことを心からお祈り申し上げます。



同社校友会北海道支部の活動を振り返って

支部長 山川 寛之（1969年経済学部卒）

小生が校友会活動にタッチし出したのは、故三好定巳支部長の時代だからもう約30年も前になる。その名譽ある支部長を拜命してからでも、10年の節目をむかえようとしている。今の校友会支部活動は、本部から活動助成金が支給されるから、通信連絡費、切手代も出せない時代と較べると隔世の感がある。かつて当支部の活動目的は第一に財政基盤の確立にあった。その手段として校友の諸先輩に会社広告をお願ひし、集めた資金をその後二年間の活動資金に充てるもので二年に一度、校友会名簿を改刷し、広告代が年間50万円程度の源資となった。



この資金の下で年間行事、新しい企画を実行して来た。結局のところ、①組織の確立即ち名簿の作成とそのメンテ、プラス②活動資金調達（ファンドの確立）の二つが校友会活動の基盤・原動力となる。北海道支部が、比較的

早くテイクオフし安定的な活動をする事が出来たのは、この二大事業が会員の努力と協力により実現したからである。それに加えて当支部に特徴的なことは、校友諸先輩が実に優しく同志社思い、後輩思いだということ。故三好支部長の夫人和子さんは、生前主人が、「同志社、同志社」と言ってお世話になったということで、金百万円也の大金をご寄付下さった。ゴルフ好きで、同窓会活動は「楽しくないと人は集まらないぞ、続かないぞ」との三好先輩の声が今も耳に残っている。同志社ばかりではなく、今では関西六大学OBゴルフ対抗戦に140人以上の方が集まる大コンペに連綿として拡がり続けている。何でも一例ならあるが二例目となると？81歳で札幌市民大会卓球の部現役シニア代表選手、加藤明史先輩から、会社をリタイアしたのでと矢張り百万円のご寄付を頂戴した。何と嬉しく涙の出る話である。自分や自分の家族が同様の行動を取れるか？甚だ疑問である、誠に有難いことである。この様な素晴らしい先輩達のお陰様で同志社校友会北海道支部は、伝統的に活発で先進的な活動を成し遂げて来られたのだと考えている。



新設「北海道支部アンバサダー」として

同志社校友会評議員・大阪支部役員

早瀬孝行（1978年経済学部卒）

北海道が大好きでこの20年毎夏に渡道し、北海道の雄大な景色、グルメを堪能し、温泉、乗馬、ラフティング、カヌーなどアウトドアスポーツ体験、チーズ作りや農業体験などしたりしています。利尻島、礼文島、天売島、焼尻島、奥尻島の離島から全道市町村くまなく巡りました。2年前には好きが高じて千歳に拠点を構え、年間の渡道頻度も増しています。同志社校友会他大学のOB会の世話役を色々しております。

フェイスブックでは同志社今出川会（同志社同窓コミュニティ）の管理人をしており、同志社情報を共有し同志社を盛り上げ応援しています。そのフェイスブックを通じて京都で武田事務局長と知り合った御縁で草野幹事長や山川支部長と親しくなりました。渡道の折には北海道支部メンバーと交流しています。

今後は北海道支部アンバサダーとして道内各地の同志社校友の方々と交流をして行きたいと思っております。

同志社 校友会 北海道支部
アンバサダー 早瀬 孝行
同志社校友会評議員
(一九七八年経済学部卒)

URL <http://hokkaido.alumni.tokai.ac.jp>
E-MAIL hokkaido@yahoocorp.jp
FACULTY OF ECONOMICS, TOKAI UNIVERSITY, 4130 YAMAGUCHI-CHO, YAMAGUCHI-CITY, YAMAGUCHI-PREF., JAPAN



小樽同志社クラブ

小樽同志社クラブ会長

浜村 光久（1969年経済学部卒）

小樽同志社クラブの歴史は

私の学生時代（半世紀前！）から活動しています。小樽公園通り教会が歴

代同志社出身牧師だったこともあり（現在もそうです）、オーテスケリー先生が顧問をしていたいた時期もありました。ただ、時代が過ぎていくと共に小樽には就職先が乏しいこと等で会員は減少の一途。現在は山川支部長、草野幹事長、武田事務局長等の札幌支部会員の出席で総会懇親会を維持



している状況です。今後は益々札幌支部との交流を深め、「最後の1人」になるまでクラブを存続させていきたいと決意を新たにしています。

母校への想い

一昨年の大河ドラマを観て、ふっと思いました。新島襄先生の創立時のあののだろうか。「東の東大、西の同志社」との大きな夢を目指した時期もあったのに、なんと昨年はスパーグローバル三十数校の指定にも落ちました。我々OBの母校愛は強いのだろうか？そしてOBとしての義務ははたしているのだろうか？（勿論 私を含めです）。

私の親しい取引先の社長に近大OBがいますが、彼は校友会活動に極めて熱心です。二年連続入学志願者数日本一でもあり（魅力は近大鮪だけでは無いのですよ）、母校愛は生半可ではありません。彼とはよく飲みながら話しますが、学生時代彼のまわりは殆ど近大が第一志望だったと云います（志を持っての入学です）。第一志望に入学できたなら母校愛も一層強まるのは

必然でしょう。残念ながら私の学生時代はそうではありませんでした。今は違うとおもいますが。

さて、母校入学以来、幾多の尊敬する先輩と親交をいただきました。残念ながら他界された方々も多いのですが、お会いできて有意義で楽しい時間を過ごすことが出来て本当に感謝して

います。

ふと立ち止まってみると私も今年で69歳になります。ここまで現役できま

したが、会社の事業継承、後継者について具体的に準備に入りました。後は母校の為に何が出来るとか考えています。同志社への愛着は歳と共に間違いなく強まっています。

「同志社大学苦小牧会」の歩み

同志社大学苦小牧会 幹事長

星野 岳夫（1995年文学部卒）

同志社大学苦小牧会の歩みは、初代会長の八島瑞夫さん（工・S38年卒・故人）と現会長の三橋泰一さん（経・S39年卒）が、苦小牧にも幾人かは存在するであろう同志社大学OBを探し始めた昭和50年にスタートします。その後少しずつ仲間を増やしていきましたが正式な会の発足は平成3年を待つ事となります。

現在の苦小牧会の特徴を示すキーワードは「同志社大学体育会アイスホッケー部」です。会の発足もホッケー部がきっかけでした。平成元年に同志社大学アイスホッケー部が出場する冬季インターカレッジが苦小牧で開催され、チームの主要メンバーに苦小牧出身者が数名いる事を受け、数少ない苦小牧在住のOBと現役選手の父母とで歓迎会が開催されました。この流れ

をもとに前述のお二人と現副会長の野村信一さん（経・S53年卒）の3名が主体となり平成3年3月21日に正式に会が発足しました。（当時の名称は同志社大学苦小牧校友会。市内初の関西の大学OB会として苦小牧民報に取りあげられました。）

その後は順調に・・・と言いたい所ですが残念ながらそうではなく、平成5年にも開催された苦小牧インターカレにおいてOB5名と現役選手の父母とで歓迎会を開催した以外、具体的な活動が行われなまま実質の休会状態となってしまうました。

会が活動を再開し現在の状況（会員約20名）に至るまでの道のりも、やはりホッケー部との繋がりが重要でした。ホッケータウン苦小牧では、いつの頃からか全国の大学ホッケー部が夏

合宿を行うようになっており、平成12年からは正式に大学交流戦がスタートしてしました。同志社大学アイスホッケー部も苫小牧で合宿・交流戦を行うようになっており、毎年8月から9月にかけて現役学生が苫小牧に滞在するようになっていたのです。また、高校アイスホッケー界の古豪苫小牧東高校アイスホッケー部から、40名近くが同志社大学に進学しているという実績もありました。

その様な中、私を含め、現役時代に苫小牧会の歓迎を受けた世代が苫小牧に戻ってきていた事もあり平成20年の苫小牧インカレを期に、平成21年の夏合宿から、現役選手たちの歓迎会を開催する運びとなりました。毎年定例で行う活動が生まれた事でOB間の繋がりが深まり情報共有も進み、会員数が徐々に増えて行きました。また、アイスホッケー以外の活動も創ろうとの思いから、忘年会・新年会はもとより、ゴルフも楽しむようになりました。

(現副会長で市議会議員の金澤俊さん(文・H9年卒)のゴルフコンペに

「室蘭クラブ近況」

同志社校友会室蘭クラブ 事務局員

石川 宣道(2002年神学部卒)

私が室蘭に来て七年目を迎えます。着任当時の私個人のことを言えば、三

年ぶり二度目の道民となる為「今度は同志社校友会に顔を出してみようか



も同志社OBチームで参加しています。さらに、苫小牧で大学OB対抗ボーリング大会を開催するというお誘いを受け、毎年5月のボーリング大会にも参戦し交流を深めています。最後になりましたが、毎年9月上旬に行われる「大学アイスホッケー交流戦」は北海道内で現役学生と繋がりを持つ事が出来る貴重な機会です。また、他の大学との応援合戦に大変苦戦しているという状況もあります。是非とも全道のOBの皆様、苫小牧に集結頂き共に母校を応援しましょう! : ご協力宜しくお願いします!!

な」との思いで札幌での総会やクリスマス会へと赴きました。その縁で校友会名簿発行時に室蘭支部の会員動静の確認係となり、室蘭支部のどなたにも許可をいただいたわけではありませんが、当面の窓口として連絡係をさせていただいております。

数年分の室蘭会員のことをお伝えすると、板垣道勇さん、小松克安さん、三木茂生さんが天に召されました。また金森昌夫さん・宏子さんご夫妻が転居されました。ご高齢によつてかと拝察いたしました。

まだ数度しか皆様へのご挨拶をしておりませんが、勝間亮造さん、鈴木雄二さん、山下盛一さんら諸先輩方より「以前は泊まりの温泉旅行が恒例だったなあ」「一年に一度は顔を合わせていた」とのお話を伺っております。

どなたからも「また機会があれば」とお聞きしますので、何年ぶりかとなる会合を開くことが課題です。また、かつてクリスマス時期には私の教会より、クリスマス音楽会のお誘いを室蘭会員の皆様にしていただくことを教えられました。過去六年そのようなことを一度もしたことなく、失礼を重ねていたことを思わされました。今後も皆様よりご指導

ご鞭撻をいただきながら、室蘭クラブの再興を願っております。

苫小牧支部の会員である永井真也さんが室蘭工大の先生であり、校友会を通じて親しくなりました。同僚に同志社出身のご夫婦が居られるとのことで、四月末に山中真也さん真弓さんご家族、永井さんご家族と私も家族のお出かけ交流会が実現しました。小さな集まりが広がっていくことをお祈りいただけます。

道内各地の校友会の皆様より伊達・室蘭・登別近郊の会員をご紹介いただきたく、ここにお願い申し上げます。



「同志社旭川同窓会」と私

同志社旭川同窓会

小西 一朗（1982年 商学部卒）

「旭川周辺の同志社出身者は連絡を」という、大きな広告が新聞に出た二十数年前。連絡先になっていた井戸諭さん（文41年卒・故人）に勇んで電話をする。呼び掛けの目的は「旭川寮歌校歌祭」にオール同志社で参加することのこと。顔合わせを兼ねて、後日河合楽器の旭川スタジオに集まると、私が一番の若輩だったが、すぐに打ち解けた。本部から取り寄せたLPに合せて卒業後初めて合唱したカレτζジソングのうれしさは今も忘れられない。

Doshisha College Song

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify: one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine
Tho' through the world we wander
far and wide,
Still in our hearts thy precepts
shall abide !

これがきっかけとなり、その後の諸先輩との交流は私のかげがえのない財産である。

中学、高校は、同期・同クラス単位の仲間が中心だが、大学は同窓という

だけで、年代を超えてわかりあえる、許しあえる雰囲気があり非常に心地よい。青函連絡船で京都に向かった最後の世代としては、「想えば遠くの大学へはるばる行ったものだ」という感慨と、「京都でよい青春時代を過ごせた」という満足感がことのほか同窓の結びつきを強くしているように思う。「旭川寮歌校歌祭」に参加すると、英語の校歌は初めてとのことで、盛大な拍手と歓声で迎えられた。この後、このイベントが解散になるまで毎年参加した。当初から幹事世話役を務めていた井戸先輩が、何度目かの校歌祭で盛り上がった二次会の席上「誰か後任の幹事役をやってほしい」と提案された際、酒の酔いも手伝ってか、あとさきを考えず挙手、「私がやります」。以後10年ほど幹事役を務めた。以来、新年会・夏のビール会・校歌祭を三大行事に、親交を深めてきた。当時は企業の支店、出先機関も多く、ピークには60名以上の同窓が名を連ねていたように思う。ちなみに「同志社旭川同窓会」には特に会則はなく、旭川周辺に在住する大学OBに限らず女子大その他の関係者全てを対象にしている（旭川周辺は何処のエリアを含

めているかは曖昧）。

さて幹事役を引き受けたもの、東川町に住む私は段取りがわからず、いつも松村勝芳先輩（商・39年卒）に相談をして進めていた。旭川の中心で百貨店を運営されていた松村さんはとても忙しいにも関わらず、何うといつもにこやかに対応してくれて、その場で日程から会場の手配まで万事サポートしてくれていた。

この間、大学バスケット部の旭川夏合宿の支援協力（当時の富井監督は旭川出身）。高原一記市議（法・40年卒）が市長選へ出馬表明をされた際の決起集会。紫に染め抜いた旭川同窓会の法

被製作などが懐かしく思い出される。

今年になり、新しい同窓の発掘と集まる機会を増やそうとの気運が再び盛り上がりつつあった。諸先輩も私も時間の経過とともに、相応に年齢を重ねてきており、これからの集まりは「一期一会」のつもりで、積極的に呼び掛けていきたい。

また、校友会北海道支部とも連携を密にしながら、横の繋がりがもたげられてきた。

ずぼらな性格で、過去の資料をほとんど紛失しており、残っている記憶だけの拙い印象記になってしまったことを反省し、この稿を終えます。

オホーツククラブ

同志社校友会北海道支部オホーツククラブ

海田 有一（1981年 法学部卒）

自分の子どもたちが大学へ進学し社

会人として就職するようになり、自身自身の同志社との関わりが以前よりも大きな意味を持つてきたように感じます。

先日東京の同期友人宅にて、同志社コール・フリーゲルのわたしの同期を中心とする恒例の新年会が開催され、京都など各地から10名を超える同期が集まりました。10名を超えたのは初めてで、おそらくわたしと同様心境の変化があったのかもしれない。

ん。

わたしは20代の終わりに出身地の北見へ戻り、すでに30年近くが過ぎました。今まで地域で校友と関わることはほとんどなく、現役がラグビーで合宿に来ているのですが関知せずに過ごしてきました。しかしここ数年、同志社校友会北海道支部のみなさんとかかわりが増すにつれて、地域にはどんな校友がいるのだろうか、この地域と同志社はどんなかわりがあるのだろうかかと気になってきました。

同志社校友会北海道支部オホーツククラブは、そんなわたしがお世話役なものですから、今のところ名前だけのようなもので、各地にて活発に活動されているみなさまにはもうしわけなく感じています。これから少しずつ活動を積み重ねようと思い、まずは校友を探すところから始まります。



ところで、オホーツクには同志社と意外なご縁があります。今出川の啓

明館やアーモスト館などを設計し、なぜかカレッジソングの作詞もしたW・M・ヴォーリーズの設計による建物が北見市に現存し、市民に親しまれているのです。それは旧ピアソン邸（ピアソン記念館）です。市の文化財として保存され、開拓期の宣教師ピアソン夫妻の足跡を偲ぶ博物館となっています。周辺は公園として整備され、野外音楽会が開催されることもあり、うちの子が出演したときに、木漏れ日のなか芝生に腰を下ろした思い出があります。ヴォーリーズはメンソレータム、メントラムの近江兄弟社の経営者でもあり、原料としてはつかが使われていたことから、



当時はつかの一大産地であった北見地方となんらかのかわりがあったのでしょうか。

飲み会で話題になった「北見でカレッジソングを歌おう！」という背景には、じつはこのような歴史があるのです。

（昭和28年神）にお会いしたのは、昭和59年3月だった。北海タイムスの札幌本社から帯広支社に転勤になり着任直後のことだった。同志社を卒業して既に10数年、同窓会なるものにも一度も顔を出したことがない私であり、この突然の訪問には正直、びつくりした。「近く、同志社の集まりがあるから顔を出すように。」どうして同志社OBと分かったんだろう？ 帯広にはまだそんなに深い付き合いの人がいないのになぜだ？ いくつもの疑問がわいたが、半ば命令調の先輩の言葉にうなずくしかなかった。

後で聞くと、三木さんは当時、帯広三条高校で教鞭を執り、熱心に同志社の校友会活動に取り組んでおられるとのことだった。それにしてもすごい情報収集力でただただ感心させられた。その後、年に一度の十勝クラブの集まりに参加し、最近では事務局長としてささやかながら集まりのお手伝いもさせていたのだという。

の夏休み、グリーククラブの帯広公演があり、地元へ帰省した現役学生やOBがチケット売りに奔走。同窓の絆が一気に深まった。そして40年代後半には三木さんも赴任し、昭和50年の同志社創立100周年の寄付集めを機に、十勝クラブの基礎が固まった。

年に一度の集まりが中心事業だが、たまには臨時の集まりもあった。卒業生の土井たか子さんが社会党委員長として一大フィーバーを起こし、日本中を駆け巡っていた昭和62年（だったと思う）、帯広でも講演する機会があった。同志社卒業生の集まりがあると知った土井さんは、時間を割いて懇談と記念写真撮影に応じてくれた。「主義主張はさておいても同志社の絆は強いものなんだな」と改めて認識させられたできごとだった。

十勝クラブの歩みと課題

同志社校友会十勝クラブ 事務局長

夏川 憲彦（1971年 法学部卒）

「夏川君はいるかね？」
「はい、私ですが」

「同志社の三木です」
こんな感じで今は亡き三木茂生さん

十勝クラブは、小規模ながら女子大も含めた十勝管内の卒業生30人余りを把握、毎年暮れ近くに集まりを持つている。参加者は例年15人から20人の間。毎回、「若い人たちが、転勤族も把握して参加者を増やそう」と声を掛け合っているが、大きな変化はない。会長の石川博機さん（昭和40年商）によると、OB会として集まる機運ができたのは昭和39年頃という。この年



また、同志社ラグビーの代名詞でもある岡仁詩先生をお迎えして10人ほどで宴を開いたこともあった。平成14年の夏、「ラグビー部は北見で夏合宿をしているが、内容に変化を持たせるために、十勝あたりでミニ合宿できたら

いい」ということで帯広に來られた。ラグビーファンクラブの会員でもあった私が一日十勝各地の候補地をご案内した。宿泊施設の部屋が足りないとか、グラウンドの行き来が不便、などの理由で結局は実現に至らなかったが、夜の宴は盛り上がった。ほとんどお酒は飲まない先生だったが「同志社というのは不思議な学校で、卒業してからどこにも負けない愛着がわいてくる」とご機嫌だった。



後年、会社経営で大成功を収めたラグビー部OBがどうしても農業もやりたい、ということでも十勝に農地を持つた。「十勝はニュージランドそっくりだよ」という岡先生の推薦があったことは言うまでもない。

私事であるが、ラグビー部の北見合宿は今も続き、東京や大阪のファン数は、毎年いったん帯広に集まり、私や土幌町に住む吉弘英八さん（昭和45年法）の車で北見に向かい全国のファンが資金を出し合った牛肉の差し入れや檄文を届けている。北見合宿がある

限り続くはずだ。北見地区の卒業生の方々とも交流ができれば、と願っている。

十勝クラブは若手の会員増強が課題になっている。若手と呼ばれる会員もはや50代だ。転勤族やUターンした卒業生も少なくなるとみられるが、なかなか情報が集まらない。石川会長は「同窓会活動も継続が大事。北海道支部が柱になって卒業生の連絡や各クラブ間の協力態勢ができるといい。若い人が一人でも多く参加してもらおうことよって十勝クラブの将来につなげたい」と話している。校友会の活性化に向けて故三木先輩のような行動力は欠かせない。同時に大学当局や北海道支部の情報収集力と発信力に期待したい。

「同志社釧路OB会」のこと

同志社校友会釧路OB会

高橋 義雄（1975年商学部卒）

昨年10月武田事務局長より突然お電話がありまして、クラブ訪問では非釧路にお伺い致したいとのことでした。その週末、丁度私に札幌出張の予定がありまして、札幌でお会いしましょうと約束が出来上がりました。当日、地下鉄大通駅で待ち合わせ。

全くの初対面ですのに携帯を鳴らす前に、お互い直ぐに目星が付きまして。双方、同志社の匂いがしたのかもしれない。草野幹事長も一緒に、その夜は旧知の友のごとく美味しい酒と楽しい話に花が咲きました。

さて私ども「同志社釧路OB会」は、1980年代初めに再結成された（それ以前にも小規模ながら存在したが中断）現在に至っています。会則も無し、会長も無し、年会費も無しと無い無い尽くしの緩いところが功を奏してか、三十年数年間に二回欠かさず例会を開いております。

1990年代には当地「釧路市ラグビー祭」にラ



グビー部が3回来釧路し、大東文化大学との交流試合でOB会一同打ち揃って大声援を送ったものです。勿論打ち上げは牛飲馬食の現役選手相手のこと、これしか無いとビールとジンギスカンの飲み食べ放題で大いに盛り上がり親睦を深めました。

その頃に較べますと、会員数も高齢化のため減少傾向にありますが、例会には10名前後が固定メンバーとして参加してくれています。釧路市内だけでなく、遠く根室からいつも2名が駆け付けてくれます。ことに昨年末の忘年会には、札幌在住の「釧路OB会」のOBが3名馳せ参じてくれました。その折年には無の大盛会となりました。その折には商学部樹徳会の辻亨氏よりミネラルウォーター「最裏級」ダンボール一箱をお送り頂き、この場をお借りして御礼申し上げます。ほとんどの会員が60歳半ば過ぎとなりましたが、いつも大衆時代に戻った気分です同志社を語り、京都を語り、母校愛を深めております。遠方ゆえ札幌での北海道支部の催しになかなか参加できませんが、私ども釧路OB会一同、同志社校友会北海道支部の益々の発展をお祈りしております。

帯広 北見



同志社校友会北海道支部は こんな電子媒体で広報活動を行っています



215名参加のメーリングリストです。クローズな環境で運営されています。参加希望の方は以下までご連絡下さい。
info@hokkaido.doshisha-alumni.org (武田)



ユーチューブで動画を流しております。会員限定で配信しています。リアリティあふれる様子をお伝え致します。メーリングリスト、フェイスブック内で URL を限定公開。



フェイスブック同志社校友会北海道支部です。高崎幹事を中心に運営されています。参加希望の方は以下までご連絡下さい。
info@hokkaido.doshisha-alumni.org (武田)



フェイスブック同志社今出川会（同志社同窓コミュニティ）です。現在 4500 名ほどが参加しております。北海道支部アンバサダーの早瀬さんが運営しております。



同志社校友会北海道支部のホームページです。予定、沿革、各クラブの様子を全て見ることができます。
<http://hokkaido.doshisha-alumni.org>



校友会活動の基幹ホームページです。全国校友の様子を見ることができます。
<http://www.doshisha-alumni.org>

人物点描・新島襄（そのⅣ）

楠公精神と新島精神との脈絡について

常任相談役 武谷 洋三（1969年法学部卒）

新島を「脱国」に駆り立てたもの

今回もまた浅学非才を省りみず、校祖・新島襄の人物点描を試みたい。

昨年六月十四日、新島襄が函館の地から国禁を犯して脱国した一八六四年（元治元年）の同日が、ちょうど一五〇年後にあたるのを記念して、「新島の足跡を辿る」二日間にあたる碑前祭ツアーが企画され私も参加した。

二十一歳の新島が「武士の思ひ立田の山紅葉 錦着ざればなど帰るべき」と、まなじりを決してまさにここから旅立った《新島襄海外渡航乗船之処》碑の前に、しばし幕末・維新に際会した当時の日本男児の「志」というものについて思いを巡らした。

そして国禁を犯してまで文字通り命がけて脱奔出国する——この新島の激しい情熱は何故に生じ、いずこに向おうとしていたのかを想った。後年の温良恭謙、慈愛にあふれ、徳に満ちた、敬恭なキリスト者・新島のイメージとの間に、少なからざる「違和感」

を覚えながら…。

そんな思いを抱いていた折も折、小枝弘和氏（同志社社史資料センター社史資料調査員）による『新島襄にとつての函館』と題した記念講演が、碑前祭のあとに行われた。これが私には実に興味深く、同時に少くとも永年抱いてきたモヤモヤした気分が晴れる思いがしたのである。

小枝氏はまず、襄が幼名の七五三太であった時代に着目する。襄の父・民治は安中藩で江戸詰め、「祐筆」という職にあり、幕末動乱期の様々な出来事に関する「通達」を地元上州安中藩に発出する立場にあった。

その安中藩邸は江戸城のすぐ横にあり、襄はそこで生まれ二十一歳まで暮らした。従ってペリー来航、日米和親条約、安政の大獄、桜田門外の変など、その頃国を揺るがす事件を頻繁に身近で体感し、情報にも接していたわけである。

だから国を憂い、国の為に何事か報いたいと願う「憂国の志士」へと、燃ゆるが如き情熱をたぎらせていったに

違いないと私は思った。

そのような当時の新島襄の「心象風景」を映す一例として小枝氏が挙げたのが、新島の兵庫・大湊神社参拝である。要点のみ記すと『嗚呼忠臣楠子之墓』と記したるを読み一拝し、又読みて一拝、墓後に廻り朱子の文を読めば益感し涙流さぬ計なり』（新島襄手記『玉島兵庫任復紀行』）。

楠木正成の墓を拝み、感極まつて涙を流す。言うまでもなく楠木正成は幕末から大東亜戦争敗戦まで、「忠君愛国」のシンボルであり続け、その「楠公精神」は戦前の「修身」教科書でも特筆大書される存在だった。

しかも新島は、この墓の拓本（左の写真）を額装して自宅に掲げ、それは現在もあるという。墓参の詳細な記録を残し、なおかつその拓本を終生大切に持っていた…。この新島の楠木正成への尋常ならざるシンパシーについて、明快にその心理を「解剖」した論説を私は寡聞にして知らない。

楠木正成に深く傾倒した新島襄

「温故知新」という言葉がある。古きを尋ねて新しきを知る——ということだが、戦後七〇年を経た今日、敗戦を境に日本人が失った最たるものの一つは、我々の父祖や先人達が国史に刻んだ偉大な足跡や光輝ある民族の物語ではなからうか。

楠木正成—その名は敗戦とその後の占領統治の間に、封建思想や軍国主義を連想する悪しきシンボルとして弊履のごとく捨てられ、顧みられなくなつて久しい。

しかし、楠公精神に秘められた忠誠心、道徳的清らかさや潔よき、礼節、廉恥、信義、犠牲心などの武士道の徳目の一つひとつ追つていくと、驚くほど高貴な「新島像」と重なるではないか。新島はキリスト者の前に「武士」だったのだ。

してみれば、新島襄が楠木正成の墓前に落涙し、並々ならぬ思い入れを生涯抱きつづけたことも得心がゆくというものである。

「良心教育」「キリスト教主義」「自由・平等」「国際主義」…いずれも「新島精神」に源を発する同志社の教育理念に相違ない。しかし—

『先生は薩長人の如く真向から尊皇攘夷を唱えなかつたが、然も熱烈なる



ナシヨナリストであり、愛国者であったことは間違いない』

『清教徒の精神(ピューリタニズム)は、新島固有の武士道精神に厚みと強みと新たな風格と美しい風韻(おもむきのあること)を加えたるに過ぎなかつた』

この二つの所懐は、新島の心中を識ること右に出る者はいない、と自他とも認める徳富蘇峰の断案である。

私は常々、いわゆる「戦後民主主義」の時流に阿ねた軽佻浮薄な言説や論調を苦々しく思つてきた人間である。戦後出版された新島襄の伝記、評伝、解説本はすこぶる多い。だが、なにか砂をかむような味気なさ、潤いのなさを感ぜて仕方がない。新島襄の血や汗や涙、切ない吐息や胸の高鳴りが伝わつてこないのだ。

『歴史を知るといふのは、古の手ぶり口ぶりが見えたり聞こえたりするよくな、想像上の経験をいうのです』(小林秀雄)。そう、同志社人には『後から歩む者は、故人(新島)の跡を求めず、故人(新島)の求めたる所を求めよ』(松尾芭蕉)の箴言を絶えずかみしめながら、アメリカで「世界の百聖人」の一人と賞揚される新島襄を、折節、心の中で「追跡」すべきではなからうか。

人を引きつけてやまない新島の磁力

新島襄の人間像を少しでも探索した

者であれば、誰しも彼の人と人との縁の多彩さに驚く。「絢爛たる出会いの人」と称されるのも至極もつともだ。生涯をたどると、あたかも神の恩寵による導きとしか言いようがないほど、妙縁に満ちている。

慶応、早稲田、同志社は私学草創期からの雄として今日もなお屹立した存在である。しかしながら、福沢諭吉は徳川末期からすでに洋学者として天下に聞こえ、著書『西洋事情』や『学問のすすめ』は超ベストセラーだった。また大隈重信の政治力や財界人脈、大衆的人気は群を抜く存在だったことは改めて強調するまでもない。

そんな両者に肩を並べ、徒手空拳、ほとんど無名に近かつた新島襄が私立の、それもキリスト教主義を標榜して因習と敵愾心の充滿した伝統的勢力の強い京都に学校設立を企てる。それがどんなに困難な道のりだったかは、涙なしには語れない(そのII・そのIIIで詳述)。

新島にあつたのは、ただただ人を引きつけてやまない「良心」と「人格」という名の強烈な「磁力」のみだった。新島にはひとたび彼に接すると、真摯にして誠実、かつ、ひたむきな熱火のごとき情熱に打たれ、放っておけない

気持ちにかり立てる曰く言い難い「磁石」が内蔵されていたものようだ。

大隈重信もそうした新島襄の磁力に

引き寄せられた典型的な一人だった。大隈は新島の没後二〇回忌に際して「明治年間に功勞ありし教育家は少ない。併し我輩の最も推服しているのは福沢先生と新島先生の二人である」と断じ、次のように回顧している。

『(前略) 我輩も当時(一八八八年―明治二年)すでに数年間、東京専門学校(早稲田大学の前身)の経験があつたので、深く新島君に同情し、直ちに之(資金援助)を承諾し……(中略)……次いで新島君は、この事業を企てるに至つた精神を話されたが、その熱誠と凛烈たる精神には一同みな感動しないではいられなかつた……(後略)』

この出来事は、新島が「同志社大学設立之主意」を掲げて設立資金募集に東奔西走していた時で、当時外務大臣だった大隈が官邸に政財界の大立物を集め、援助を募つた時のことである。

大隈によれば、『当時(明治二〇年頃)一千元は、今の(大正初期)数千円に当る価値がある。それがすこぶる少数の人であつたが即座に三万円もの金(今日の貨幣価値に換算すれば一億円を優に超えるのではないか)が集まつたというのは、新島君の至誠が人の心を動かしたというより外はない』(大隈重信「新島先生をおもふ」より、『大隈重信は語る』所収)

新島磁石に引き寄せられた人々は、もちろん国内に留まらない。第二の両親とも言うべきハーディー夫妻はもと

より、あらゆる意味で滞米中の「家庭教師」だったフリント、そのフリントが紹介したアマースト大学のシーリー教授、ヴァーモント州知事のページ、そしてハリス理化学校としてその名が残る、アメリカのザ・ニューロンドン

シティ・ナシヨナル銀行頭取ハリス等々……挙げていけばキリがない。勝海舟、木戸孝允、山本覚馬、徳富蘇峰らについてはすでに繰り返した述べてきた。新島の人脈形成の際立つて特異な点は「類は友を呼ぶ」で、イモツル式に人から人へと伝播・増殖する点にある。

並はずれた愛国の烈しさと愛人の深さ、そして国を救わんとした経国済民の宗教と多情な涙……。それらが渾然一体となつて比類なき新島の人間像を形成していたのだろう。類型のない教育者―それが新島襄だと言いたい。

最後に、本稿を左記の徳富蘇峰の言を以て締めたい。
『惟(おも)うに、新島の教育者としての資格中もつとも卓越したるは、おそらくは多量な「情緒」が、日本武士道と新英州(アメリカ・ニューイングランド州)の清教徒精神とによりて洗練せられ、浄化され、淳化せられたる一点である。彼の教育者たるを知るには、先ずこの根本的性格を知らねばならぬ』。

(平成二十七年五月吉日記)

2015年度年間活動予定&報告

幹事長 草野 賀文

1月	16日	役員会&新年会 お刺身居酒屋『瑠玖』狸小路6丁目 紅一点を含む20名の参加者、盛会
2月	11日	スキー部練習会 テイネハイランド 9名参加者、久しぶりのスキーに体が悲鳴
	26日	旭川同窓会懇親会 旭川三光舎 18名参加
3月	20日	弥生例会 『北の魚づくし』狸小路4丁目 中止 員数建て含め戦略の再構築を
5月	15日	皐月例会 イタリアンパール『ウーノ』狸小路5丁目 三条美松ビル地下一階 会費4000円
	30日	北海道支部総会&懇親会 『ノホテル札幌』4F マーブル 会費5000円 北海道校友会は女子大や各学校を含んでおります 総会と呼ばず「懇親会」と称し 集い易い雰囲気醸し出すようにしています
6月	14日	函館碑前祭 参加費無料 家族同伴可! 乗用車に分乗
7月	3日	釧路OB会総会 『三共八千代寿司』釧路市共栄大通4-1-18 会費5000円
	4日	第12 回同立戦ゴルフコンペ クラークCC
	17日	文月例会 『北の魚づくし』狸小路4丁目 会費4000円
	19日	“DOSHISHA Camp in Hokkaido” アウトドアコミティーが企画するキャンプです 今年羊蹄山山麓で行います
8月	7日	第16回 関西六大学札幌OBゴルフ対抗戦(クラークカントリークラブ) 昨年は140名参加
	30日	樹徳会主催ビール会 公開講演会 不戦70年に寄せて グリークラブ有志
9月	19日	全道クラブブロック会議・月見例会 お刺身居酒屋『瑠玖』狸小路6丁目 会費3500円 全道のクラブ関係者に声掛けブロック会議懇親会を開催します 9月を旧暦表記すると長月です ホテルの立て看板に「同志社長月例会」と記載したところ 同志・社長月例会と読めてしまうので改名を指示されました
10月	12日	三好杯争奪ゴルフコンペ 故三好支部長に敬意を表し秋にゴルフコンペを開催しております
11月	7日	第三回同志社大懇親会(京都)
	8日	同志社ホームカミングデー(京都)
	11日	関西六大学札幌OB懇親交流会 交流会は本年度の関西六大学対抗戦優勝校が幹事をします 当月は樹徳会総会 小樽クラブ総会の開催月です
	20日	霜月例会 『北の魚づくし』狸小路4丁目 会費4000円 樹徳会北海道支部 定時総会 小樽クラブ総会 十勝クラブ総会
12月	12日	クリスマス会 第2土曜日にクリスマス会を開催しています 会員家族約120名出席の大パーティーです 瘦ッチョのサンタや太ったトナカイが狭い会場を走り回り子供達にプレゼントを配ります

<http://hokkaido.doshisha-alumni.org>

行事予定の詳細はホームページに最新情報を掲載しております、確認をお願いします。